

③⑤ 浚渫砂を活用した養浜整備について

受賞機関 徳島県

キーワード 浚渫砂を活用した養浜整備、漂砂のバランス、大規模突堤の整備、小松島海岸、コスト縮減

全建賞審査委員会の評価ポイント

浚渫砂を活用した養浜整備。侵食が進行した徳島県小松島海岸（坂野地区）において、徳島県が大規模突堤、緩傾斜護岸、養浜工などの侵食対策事業を実施するに当たり、西日本高速道路株式会社が施工する吉野川サンライズ大橋で発生した浚渫砂を養浜工に有効活用するなど、成果が得られている点が評価された。

1. はじめに

徳島県の小松島海岸（坂野地区）及び那賀川海岸（今津地区）は、一級河川那賀川河口の北側に位置し、河川からの流出土砂堆積により形成された延長約6.6kmの海岸である。両海岸では、沿岸開発等により漂砂のバランスが崩れ、海岸侵食が進み、明治40年から昭和47年の65年間で、汀線が最大約150m後退し、背後地は高波の脅威にさらされてきた。

そのため、徳島県では、昭和36年から海岸侵食対策事業に着手し、離岸堤や突堤の整備を行い、侵食の抑制と波の低減による砂浜の自然回復を目指してきたが、砂の供給が見込めず、平成元年からは事業計画を人為的回復へと大幅に見直し、大規模突堤による砂の流出防止や突堤間に入射する波の低減、緩傾斜護岸による突堤基部の補強や既設堤防の根入保護とともに、養浜により砂浜を回復させ、波の低減を図る計画とした。



小松島海岸（坂野地区）と那賀川海岸（今津地区）の状況

2. 事業の概要

これまでに、砂の流出防止を担う21基の大規模突堤のうち、9基の整備を進めてきたところである。本来であれば、大規模突堤の整備が完了した箇所は、続けて養浜に着手するところであるが、海砂採取規制により全国的に養浜砂の入手が困難な状況であった。このような中、

西日本高速道路（株）が進めている四国横断自動車道の橋梁工事において大量の浚渫砂が発生することとなり、この有効活用に関して両者の思いが一致し、小松島海岸（坂野地区）の養浜に使用することとした。

養浜工事に当たっては、地元関係者への工事中の濁り発生や船舶航行への影響などが心配されたが、丁寧な説明を行った結果、了承頂き、令和2年5月から翌年9月にかけて約32万㎡の養浜工事を行った。

3. 事業の成果

今回の養浜工事により、着手前の令和2年4月と事後の令和3年10月を比較すると、汀線が最大約20m前進した。また、以前は根固めブロックや捨石が露出しており、堤防が弱体化している状況であったが、砂浜が形成され、堤防の基礎が保護されるとともに、計画波（50年確率）による打ち上げ高に必要となる海浜断面積も確保することができた。



養浜前後の汀線の変化

4. おわりに

今後も、関係機関と連携し、コスト縮減はもとより、資源の有効活用を図り、災害から県民を守る国土強靱化を推進していく。